

自主制作映画コンテスト 作品上映会

入場無料

11/22(土)・23日(日) 会場：犀の角・上田映劇

上田市は昔から数多くの劇場公開映画作品のロケ地として使われ、現在もフィルムコミッションによる支援体制を整え間断なくロケが行われています。日本映画の秀作上映を主とした“うえだ城下町映画祭”も今年で29回を迎え“ロケ地で行う映画祭”として定着しています。“映画に魅せられた街上田”では、映画文化の振興とプロ、アマを問わずに映画制作に関わる者が集う拠点になることを願い、優れた自主制作映画を発掘し、次代に続く制作者を支援します。

未だ見ぬ感性、新たな感動、自主制作映画に秘められた可能性にもっと光を！

観せる場の提供、次代に続く才能の支援。コンテストはそんな舞台装置でありたいと考えます。

／ミネート作品上映会

会場：犀の角 各日 8:30 開場 席数 50

※各作品の後に監督などの約10分の舞台挨拶がございます。

※満席の場合、また、上映途中の入場はできません。

11月22日(土)

『ワンダリング・メモリア』	9:05 ~ 9:23
『たべるってなに?』	9:30 ~ 10:16
『夜をぬけて』	10:25 ~ 11:13
『夢と進路』	11:28 ~ 11:48
『あわい』	12:25 ~ 12:40
『お笑えない芸人』	12:55 ~ 14:10
『平日』	14:25 ~ 14:47
『おかえり ただいま』	15:02 ~ 15:45
『渡り鳥も聴こえる』	16:00 ~ 17:22
『スフマートだ、ぼくら』	17:40 ~ 18:27

11月23日(日)

『サンタローズたちの休暇』	9:00 ~ 10:10
『それで十分』	10:25 ~ 11:04
『輪郭』	11:20 ~ 11:50
『キッチンオブドラゴン 風の天龍炒飯』	12:50 ~ 13:15
『接着』	13:30 ~ 13:45
『コードネーム』	14:00 ~ 14:47
『地球の3匹の記録』	15:05 ~ 15:25
『生きているんだ友達なんだ』	15:40 ~ 16:20

交流会

11月22日(土) 19:00~21:00

映画祭のゲストや自主制作映画コンテストの監督と市民の交流会です。

会場：upmoat

参加費：5,000円(税込・飲み放題)

定員：一般の方は先着10名様

申込先：自主制作映画コンテスト事務局

(TEL:0268-71-7591 上田市市民ICT推進センター内)

またはフォームで事前申込)

受付：10/27(月) 9:15 ~ 11/10(月) 17:00

※11/14(金)以降に参加キャンセルの場合、キャンセル料をいただく場合があります。



申込フォーム

大賞・審査員賞発表・表彰式

11月23日(日) 17:00~18:10

会場：上田映劇

大賞作品上映

11月23日(日) 18:20~未定

会場：上田映劇 席数：180

※作品は23日に発表

【お問合先】うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテスト事務局

(上田市市民ICT推進センター内)

〒386-0024 長野県上田市大手2-3-3

Tel:0268-71-7591

<https://www.umic.jp/eigact/index.html>[E-mail] eigact@ipu.ueda-rpc.or.jp[f @castletownff](#)[X @castletownFF](#)

【主催】うえだ城下町映画祭実行委員会<市民有志・上田市・(一財)上田市地域振興事業団>



うえだ城下町映画祭第23回自主制作映画コンテストノミネート作品

『ワンダリング・メモリア』(18分)



監督：金内健樹

幼少期に住んでいた団地がもうすぐ取り壊されると知り、ハルカは恋人のナツキと共にその団地へ夜の散歩に出かける。ハルカはそこで、かつてこの団地で幽霊を見た事を思い出す。

『あわい』(15分)



監督：佐飛実弥

田舎の一軒家で祖母と暮らす梓。ある夏の日、親友の咲との何気ない触れ合いをきっかけに、梓の中で未知の感覚が生まれ、二人の関係性が変わりはじめる。

『渡り鳥も聴こえる』(82分)



監督：寺尾都吏

タクシーの乗り逃げで前科を抱える小山誠太は、記憶を便りに雪景色の池田町に移住する。町民は不審がるが、青年・清水美雪は世話を焼く。傷を抱えた二人の青年が出会う、ひと冬の物語。

『輪郭』(30分7秒)



監督：初見弘貴

43歳で途中失明した初見和生は妻と暮らす。時々実家に帰ってしまうため、次男の弘貴に助けを求める。そんな中、弘貴は古いビデオカメラを見つめる。

『地球の3匹の記録』(20分)



監督：高橋 佑

美術部、映画部、地球外からの留学生の3人の高校生が学校を抜け出し、映画の撮影をしながら、とある場所を目指す。

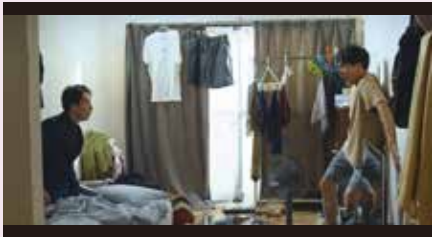
『たべるってなに?』(46分)



監督：白田一生

娘の誕生を機に沖縄やんばるへ移住した「私」。「コンビニ外食」が当たり前だった頃とは違う家族や地域の共同体の中での暮らし。そんな中で芽生えた1つの問い。たべるってなに？

『お笑えない芸人』(75分)



監督：西田祐香

芸人を目指す佐原は相手の瀬戸口とコンビを組むが、ある出来事で解散し佐原は芸人を辞める。ある日、『爆発的に売れた理想の自分』が現れ、売れる方法を教えてくれるというが・・・。

『スフマートだ、ぼくら』(47分)



監督：森 拓人

大学生の栄太は友人と日常を過ごしながらも距離感を測りかねているが、友人の恋人の発言がその関係を不確かなものにしていく。若者たちの揺れ動く感情と曖昧な距離感を描いた物語。

『キッチンオブドラゴン 風の天龍炒飯』(25分)



監督：鬼村悠希

タケルは、伝説の料理術「龍神拳」を修得し、仲間とともに父の敵を討つ為に奮闘する。青春料理バトル活劇。

実行委員会特別賞作品 『生きているんだ友達なんだ』(40分)



監督：上野詩織

優実は母親と二人暮らしで家計を支えていた。ある日、歳の離れた友人の石井が『私たちは人生に問いかけられている』と言い残し、姿を消す。

『夜をぬけて』(48分)



監督：安井 彬

高校生から付き合っていたミドリに振られた大学生のジュンは、飲み会で先輩のアカネから声をかけられる。数日後、アカネは、ジュンを自宅のアパートへと誘う。

『平日』(22分)



監督：久世英之

平凡な共働き夫婦の住むマンションの一室の深夜。夫は仕事から帰宅早々、上司からの電話対応に追われていた。ひと息ついてほっとするも、その後次々と厄介ごとが舞い込んでくる。

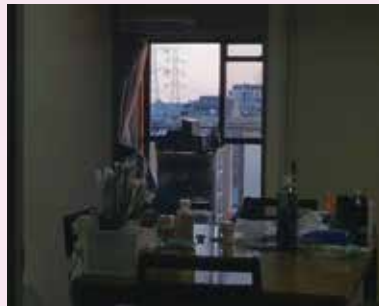
『サンタクロースたちの休暇』(70分)



監督：澁谷桂一

両親に先立たれ、街の自販機に残されたお金を拾って暮らすあいこの豪邸に、家出少女アガサが転がり込んでくる。ある切実な想いを持つ男・ポップも加わり、三人の冬の日々が始まる。

『接着』(15分)



監督：河野史弥

引き籠もっている怠惰で野心のない男は、間違った時間に目を醒ますと他者の生活に侵入してしまった。即席の一貫性に溺れ、若さを浪費するだけの15分。

『夢と進路』(20分)



監督：前田聖来

全国大会を目前に陸上部のエース・芽依が突然の退部。「芸能の道に進みたい」と言う彼女に、かつて役者を目指していた担任・瑞穂は進路指導を試みるが、自らの選択にも揺れ始める。

『おかえり たいいま』(43分)



監督：山口真凜

教習所に通うゆきは、父拓司と2人暮らし。ある日、10年前に失踪した母が連れ子の壘と共に帰ってくる。新しい生活が始まる中で、それぞれが家族の在り方について見つめ直す。

『それで十分』(39分)



監督：鈴木涼馬

小山と朝日は共に暮らし、世界でその関係を知るのは2人だけ。広くも狭い社会で、お互いの「十分」を理解し寄り添う2人を、人間以外の生物や雄大な自然と対比しながら描く。

『コードネーム』(47分)



監督：岩坂 桂

人とうまく繋がることができず、孤独な太陽の唯一の” 抛り所” が、歌とギター。路上で弾き語りライブを行う里奈との出会いが、やがて太陽を思いもよらぬ行動へと導く。

うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテストについて

うえだ城下町映画祭の一環として開催している自主制作映画コンテストは、今年で23回目を迎え、過去最多の156作品の応募がありました。

その中から、審査員3名(大林千茱萸さん、大槻貴宏さん、古厩智之監督)により、大賞・審査員賞候補であるノミネート17作品が選ばれました。

また、全作品を対象に映画祭の実行委員会のメンバーによって「実行委員会特別賞」も選出されました。

作品は、上田市の文化施設として重要な役割を果たす「犀の角」と「上田映劇」の2つの場所で、映画祭期間中に上映します。

うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテスト事務局
<https://www.umic.jp/eigact/index.html>